（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　令和4年2月24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4670300526
法　人　名	有限会社 鹿屋介護サービスセンター
事 業 所 名	グループホーム 田園
所　在　地	鹿児島県鹿屋市祓川町5369番地1 （電 話）0994-40-3151
自己評価作成日	令和4年1月16日

※事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ＮＰＯ法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ケ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな田園風景の中に施設はあり、車の騒音もないところです。施設の敷地もゆったりして畑や果樹、花木など季節感を楽しめる環境です。建物は軽量鉄骨造りで、屋根にはソーラーパネルを設置して、環境にも配慮した造りです。玄関からホール、トイレ、お風呂場、居室などは全て車いすで移動できるバリアフリーになっていて、自立した生活に適しています。災害時もスプリンクラーがあり、火災時の消防署への自動通報装置も設置してあり、また地元町内会の消防団員や職員へも自動で通報されて駆けつけられるようにしています。また、施設は高台にあるために水害に会う危険もありません。職員は8割が介護福祉士の資格を持ち、2人が看護師です。職員は入職時に1年以内に救急救命の講習を受けています。地元の町内会にも入っており町内の行事や小学校の生徒の訪問等地元民との交流をしています。今は、コロナ感染症の影響で交流はお手紙のやり取りだけになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

・当事業所は町内会に加入し、小学生との交流や地域行事の八月踊り・棒踊りにも参加していたが、コロナ感染防止の為に自粛している。職員も地域居住者が多く。施設畑に近隣住民のお手伝いもあり、良好な関係ができており、親しく交流している。
・運営会議は定期的に開催し、コロナ感染防止の為に書面会議となっている。事業所の現状報告や取り組み・課題を報告し意見を得て支援に活かしている。
・管理者は利用者が自由な暮らしができるように支援し、利用者からは日頃の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族には毎月の近況報告と施設便りを送付し、電話や面会時に窓越しで話をして要望を聞いている。意見は運営に反映させている。
・申し送り時や毎月の職員会議で意見が出ている。個人的な相談や要望はその都度管理者が聞き、対処している。入浴介助・誕生会・勤務体制・休暇取得について等、運営に反映させ、働きやすい環境づくりを目指している。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの前にその日の出勤者全員で理念の唱和をして理念の実践の確認をしてる。理念は玄関と利用者が過ごすホールと事務所に掲げて来客にもわかるように表示している。	理念は見直しを行い、玄関や事務室・ホールに掲示し、パンフレットにも掲載している。申し送り時に唱和し、職員会議や自己評価記入時に振り返り、職員は理念を共有し支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、地域行事の八月踊りや町内会の棒踊りの施設訪問、また小学校の運動会の見学や施設畑の近所の方のお手伝いなど日常的に交流しているが、今はコロナ感染症の影響で限られている。	町内会に加入し、小学生との交流や地域行事の八月踊り・棒踊りにも参加していたが、コロナ感染防止の為に自粛している。職員も地域居住者が多く。施設畑に近隣住民のお手伝いもあり、良好な関係ができており、親しく交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	町内会の方々の相談や民生委員の方々を通しての相談による入所者の受け入れなど、地域の方々の認知症の方への理解や支援に役立つように努力している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症の影響で運営推進会議中止が続いているが、施設の現在の状況や取り組み等を文書で各委員の方々へ定期的に報告して意見などを伺うようにしてサービス向上に活かしている。	会議は定期的に開催し、コロナ感染防止の為に書面会議となっている。事業所の現状報告や取り組み・課題を報告し意見を得て支援に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは市の主催のオンラインでの研修会を通してアドバイスをいただき協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者とは運営推進会議の参加を得たり、電話や窓口に訪問し情報を共有している。市主催の研修会にはオンラインで参加し情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルを整備して、普段のケアを通して日常的に虐待防止や拘束をしない介護についてお互いが理解をしながら、居室へのセンサー設置など事故防止などに対応しながら身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を年2回実施している。職員会議でマニュアルに沿って研修を行い、言葉遣いについては職員間で注意しあっている。玄関の施錠は日中はしていない。外出希望者には車椅子で散歩し、思いや行動に制限のない支援をしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを整備して、普段から施設内研修を実施して虐待とはどういうことかを職員一同勉強して虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については、コロナ感染症の前には毎年研修に参加して職員会議を通して職員一同理解を深めている。現在2名の方が社会福祉協議会の成年後見制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時の契約を取り交わすときは必ず契約書を読み上げて、疑問点があれば説明しながらお答えして、納得の上で契約をしている。また改定事項があればその都度同意書をえている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ感染症の影響で家族会を開けない状況であるが、毎月の近況報告と施設新聞だよりを送りそれに対する要望などを家族の訪問時にお聞きするようにして運営に反映できるようにしている。	利用者からは日頃の関わりの中で意見や要望を聞いている。家族には毎月の近況報告と施設便りを送付し、電話や面会時に窓越しで話をして要望を聞いている。意見は運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見は朝夕の申し送りの時や毎月の職員会議の時に聞き取るようにして、個別の相談にも応じている。また勤務表の作成時は各個人の希望を可能な限り取り入れて、働きやすい環境になる様配慮している	申し送り時や毎月の職員会議で意見が出ている。個人的な相談や要望はその都度管理者が聞き、対処している。入浴介助・誕生会・勤務体制・休暇取得について等、運営に反映させ、働きやすい環境づくりを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得や研修費用などの補助をして、向上心の有る職員がやりがいのある仕事が出来るように職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染症の影響で研修の機会が思うようにとれないが、オンラインでの研修は積極的に受けられるように配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議の委員に他の施設になって頂き、相互に運営推進会議参加して同業者の情報のやり取りをしながらお互いのサービス向上に役立てているが、今は文書での交換をしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の入所前の生活環境を把握しながら本人第一の希望で家族の要望に沿った、安全安心な生活が出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に必要な情報やアセスメントを取り本人や家族の困りごと、不安や要望などをお聞きして、本人に寄り添う介護が出来るように関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始の段階で施設として出来うる介護支援と家族の協力の必要なこともお伝えして、施設の支援の下、本人が安心して生活出来るように他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まず最初に本人の出来ること出来ないことを把握して出来ることは本人にしてもらい、役割を持ち張りのある生活が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会など自由にできない状況であるが、施設訪問や近況報告を通じて、家族と本人の絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会等短時間であれば出来るようになってきた。しかし馴染みの場所への外出は未だできてない。また、今のところは外出希望もないが、できる様になったら支援していく。	コロナ感染防止の為に行事も自粛し窓越し面会である。家族との外出もできず、希望があれば個々に桜やアジサイの花を見物に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活状況から利用者同士の相性を把握したテーブル席配置にして、お互いが気持ちよく生活出来るように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された人がどのようにされているかを把握しながら、再入所の相談された時は空き状況に応じて優先的に入所できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時のアセスメントや日頃の生活での意向や希望などまた、家族からの聞き取り、うまく伝えられない方の表情や仕草などをくみ取り本人本位の生活が出来るように支援している。	利用者の言葉や表情・しぐさから思いや意向の把握に努めている。家族から話を聞いたり、職員間で話し合い、本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や生活歴、家族からの聞き取りなどで本人の生活環境の把握をしながら馴染みの生活が出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のその日にしたいことや普段の生活でいつもしていることを把握して、本人の生活力に沿った支援をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	変化がなければ6ヶ月ごとに介護計画を立てて毎月のモニタリングを通して介護状況を職員全員で話し合い変化があれば現状に則した介護計画を作成している。	本人や家族・必要な関係者と話し合い、主治医の意見をいれて介護計画を作成している。モニタリングは毎月、見直しは6ヶ月毎に行っている。状況に変化があればその都度見直しして、職員の意見を聞き現状に即したものとなっている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の経過記録を付けて、状況の変化を職員間で共有しながら必要なら介護計画を見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が必要なことなどを把握して、家族の状況に応じて支援は既存のサービス以外のことや病院受診など柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の影響で今困難であるが、普段は地域の行事や催しなどに参加して、地域に溶け込んだ楽しい生活が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医の把握や本人や家族の希望に添った医療が受けられるようにしている。また訪問医療の紹介もして本人に負担のかからないような医療が受けられるような対応の支援もしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医である。訪問診療専門のかかりつけ医もいる。夜間往診や24時間医療連携体制も整っている。看護師がおり、日常の健康管理やかかりつけ医との連携も行い、適切な医療を受けている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は、看護が必要な利用者の方々の医療的な面と介護の面において介護職員と連携しながら利用者の適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は管理者はすぐに情報提供書を提供して医療機関が適切な治療が出来るように努めている。また、病院受診や往診の時に普段の体調なども報告相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における指針」で、施設で出来ることについて家族や本人に十分に説明して、同意をもらい。重度化や終末期ケアについて家族の希望や施設の方針を共有して、ともに支援出来るように努めている。	重度化や終末期に向けた指針があり、入所時に説明し同意書をもらっている。看取りまで望まれることが多く、段階的にかかりつけ医・家族・管理者が話し合い、本人や家族の希望する支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命法を職員全員入職時に消防署の講習で受けている。また、救急車の呼び方の手順と情報提供書をすぐに出せるように準備している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災地震などの災害時の対応は昼夜を問わずに利用者を避難誘導を出来るように訓練している。また、火災時は消防署に自動通報され、職員は消防署の救命救急法の講習を受けている。食料と水も3日分は確保するように備蓄している。	年1回消防署の指導の下、昼夜想定で避難訓練を実施している。自主訓練は消防団員と一緒に行っている。地域の協力もできている。備蓄は米・水・レトルト食品・缶詰等があり、3日分位用意している。畑の野菜もある。救命救急講習も受けている。水害は高台なので安全である。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から一人ひとりのプライバシーを尊重して、トイレもさりげなく誘導して本人の尊厳ある生活が出来るように言葉かけに気を配った支援に努めている。	個々の人格を尊重し、呼称はさん付けで、排泄や入浴時は気配りをしている。入室時は声かけをしている。申し送りは名前を出さずに行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の普段の生活からその人らしい思いや希望を尊重して、自己決定出来ない人もその人に合った思いに添っていけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の気分に合わせて施設の行事を優先することなくその人の思いや希望に合った生活がその日送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	女性の化粧品や服の購入や男性の身だしなみのための服や副葬品の購入等、また、白髪染め等の支援をしておしゃれが出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに合った食事のメニューを工夫して、好みに合わない人には別メニューも準備してみんなが楽しんで食事している。また食事準備や後片付けなどは本人の出来る範囲でしてもらっている。	個々の嗜好を把握し旬の物を使い、自作の畑の野菜も収穫し調理している。行事食にちらし寿司・おせち料理・節分・誕生会は希望のものを提供し楽しんでいる。お好み焼きも作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録して、一日の摂取量の変化で体調不良がないかチェックしている。水分をとりづらい人もいるので、好きな野菜や果物のジュースなども利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人の能力に応じて支援している。自分で出来ない人はスポンジブラシなども使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	バイタルチェック表で一人ひとりの排泄間隔を把握して、適切な声掛けとトイレ誘導などしているが、テープ式オムツなどを使用している方は定時のオムツチェックをしている。	排泄チェック表でパターンを把握しトイレ誘導している。症状に応じたトイレ支援をしている。オムツの種類も個々に対応している。夜間はおむつやポータブルトイレを使用する場合もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から繊維質の野菜芋などを食事に出して、また、毎日のラジオ体操と運動へのお誘いと、その上で便秘のある人は医師と連携して対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週に3回の入浴日があるが、排泄の失敗等の入浴や本人希望の入浴などしており、入浴拒否のある人は時間を空けてお誘いや職員を変えてのお誘いをしている。また季節によってゆず湯や入浴剤も工夫して楽しんでもらっている。	入浴は週に3回であるが柔軟に支援している。失禁の時はシャワーチェアーでシャワー浴、入浴を嫌がる場合は、日を変えたり、時間をずらしたりしている。柚子湯や入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転のある人はその人のペースとして大切にして、安心して過ごせるようにしている。また、お昼寝でよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は全て職員が管理して、誤薬や飲み忘れのないように、また、用法用量は職員が理解して服薬後の変化がないか確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や意向に施設として出来る範囲で過ごせるように支援している。畑での野菜や花の栽培などを通じて季節を感じてもらいながら楽しく生活をしてもらえるように努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今、コロナ感染症の影響で外出が思うように出来ないが、普段は家族や地域の方々の協力で町内会の行事への参加や施設への訪問など協力してもらいながら支援している。	その日の天候や希望にそって散歩や外気浴をしている。コロナ感染防止の為に家族との外出や地域行事・小学生の演劇の訪問も自粛、事業所の行事も制限しているが、受診の帰りの桜やアジサイ見物などのドライブをしている。収束したら外出計画を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ちたい方は家族の協力のもとでお金を入れて持ってもらい、買いたいものがあれば職員が支援して買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人との連絡は希望されたらお電話や手紙での連絡などの支援をしている。届いた手紙は本人の了解のもと代読もしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の玄関からホールと建物全体がゆったりして広く、風通しも良くて、お互いがプライバシーを保てる空間がある。窓の外の眺めも良くて外の環境も静かで生活感と季節感を取り入れて居心地が良い環境である。	ホールは天窓があり大きな窓から景色を眺めたり、季節を感じることができ、柿・梅・キウイの木があり楽しんでいる。換気に努めている。壁には作品や写真が飾られ、ゆったりとした室内で気持ちも穏やかに過ごしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が広いので、仲の良い人同士で過ごしたり、一人で過ごせる空間もあり、一人ひとりが居心地良く過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴れ久しんだ家具や仏壇や写真など思い出の品を持ち込んでもらい、馴れ久しんだ生活の場になり、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室は洋室で広く、安全の為に畳を敷いている部屋もある。エアコン・ベッド・洗面台・タンス・ソファを設置している。テレビ・仏壇・位牌・加湿器・衣装ケース・家族写真・ぬいぐるみ等を置いてゆったりと暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からお風呂場まで全てバリアフリーになっており、居室もホールから全て見渡せる位置にあり、アクシデントがあればすぐに職員が対応できるように、安心して自立した生活が出来るように工夫している。		

Ⅴ アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に１回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない